



— ふくしまの未来のために復興を支援します —

一般財団法人 ふくしま市町村支援機構

新年度 理事長あいさつ

ふくしま市町村支援機構の運営につきましては、日頃から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

私たちが未曾有の混乱と筆舌に尽くしがたい困難とに陥れた東日本大震災と原子力発電所事故の発生から早くも5年の歳月が経過いたしました。

この5年間は、長い取組みとなる大震災及び原発事故からの回復に向けた歩みの中で、「集中復興期間」と位置づけられ、我々県民は、それぞれの置かれた立場と、各々が守る場所で、懸命な努力を積み重ねてまいりました。

その結果、除染が進行し、様々な公共施設や災害公営住宅が完成するなど、多くの分野で目に見える成果が現れてきたところであります。

そして、その中で、支援機構もまた一定の役割を担っており、そのことを通じて、本県の復旧・復興に僅かとはいえ貢献できたもの、と考えております。

しかしながら、いまなお10万人近くの方々が県内外での避難生活を余儀なくされ、整備すべき公共施設も数多く残され、産業再生や風評被害対策にも全力を注いでいかなければならないなど、復興への道はまだ半ばにある、ということが実態であります。

この4月からは、復興の新たなステージとして、「復興・創生期間」が始まりました。

昨年の9月には、本県は関東・東北豪雨に見舞わ



理事長 遠藤 雄 幸

れ、大きな被害が発生したところであり、災害への備えも怠るわけにはいきません。

社会資本の点検実施による長寿命化も引き続き大きな課題であります。

こうした難問や課題が山積する中で、支援機構は、職員の増強など自らの能力の向上を図りながら、社会資本の整備に関する支援と、いままさに必要とされる活動を展開してまいります。

今後とも、安心・安全な県土づくりに全力を傾けるとともに、皆様から信頼される組織づくりを進めてまいります。引き続き、皆様の御支援と御協力を賜りますとともに、支援機構を大いに御活用いただきますよう、お願い申し上げます。

Contents

建 築	②	富岡町立仮設診療所の設計・施工の発注を支援しました
研 修		市町村建設事業担当職員向けの研修を行っています
建 築	③	伊達消防本部の新庁舎が竣工しました
橋 梁	④	夜間・休日を問わず橋梁点検を行っています
道 路		八木沢トンネルが貫通しました
地域振興	⑤	檜枝岐村・葛尾村の地方版総合戦略を策定しました
職員紹介	⑥	構造技術課 技師 佐藤 勇人さん、設備課 技師 吉田 悠将さん
地域情報	⑧	ふくしま街道・川ものがたり ～桑折町 羽州街道と半田銀山～

富岡町立仮設診療所の設計・施工の発注を支援しました

富岡町は、平成29年4月の帰還開始を目指し、道路や上下水道の復旧など生活環境の整備を進めています。その一環として富岡町立仮設診療所の建設が計画されており、当機構はその設計・施工の発注を支援しました。



富岡町立仮設診療所 完成予想図

富岡町は、東京電力福島第一原発事故の影響で現在も全町避難しています。震災前、町内には7か所の医療施設がありましたが、いずれも町内で再開する見通しは立っていません。

仮設診療所の建設は、医療サービスの供給体制を確保することで、町内で事業を再開している人や一時帰宅者、復興業務作業員などの急患等の医療ニーズに応えるとともに、帰還に向けて町民が安心して生活できる環境を整えることを目的としています。

仮設診療所は、JR富岡駅北西部の曲田地区に開設される予定です。同地区は、上下水道などのライフラインの復旧が進んでいることに加えて交通の利便性が高いことから、将来の復興拠点として位置づけられています。平成28年秋の開業を目指して、現在建設工事が進められています。

お問い合わせは **建築課 ☎ 024-522-5124** まで

市町村建設事業担当職員向けの研修を行っています

市町村建設事業等担当職員研修は、建設行政の改革や社会情勢の変化等に適応することや職員の技術力向上を図ることを目的に実施しており、平成28年度は以下の9コースを開催します。多数の参加をお待ちしています。詳細については、開催の約1か月前にお知らせします。

平成28年度 市町村建設事業等担当職員研修計画

研修区分	研修名	開催月	日 数	備 考
基 礎	土木技術の基礎講座	5月	3日	
初 級	設計積算システムによる積算演習〈土木コース〉	7月・8月	3日	2回開催
	設計積算システムによる積算演習〈建築コース〉	7月	3日	
	Jw-CAD演習(初級)	7月・9月	2日	2回開催
	用地初級	10月	2日	
中 級	道路事業の計画設計(Ⅱ)	12月	3日	
	災害復旧事業の執行	8月	3日	
	橋梁点検と補修計画	10月	3日	
	工事検査	5月	1日	

お問い合わせは **総務課 ☎ 024-522-5123** まで

伊達消防本部の新庁舎が竣工しました

伊達地方消防組合の消防組合消防本部中央消防署庁舎及び消防指令センターが、平成28年3月に竣工し、4月11日に落成式が行われました。当機構は、監督員補助業務として支援を行いました。



(上 段) 新庁舎外観 (東側)

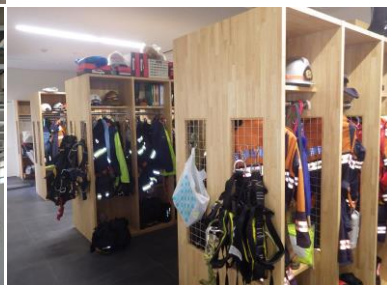
(下段左) 指令センター

(下段中) 車庫

東西両方のシャッターが開くようになっており、スムーズな出動が可能。

(下段右) 出動準備室

執務室、車庫、救急消毒施設に隣接し、円滑な動線が確保されている。



当該施設は、災害発生時に防災拠点としての役割を確実に果たす必要があることから、防災上重要建築物に指定されており、一般の建物よりも高い耐震性能が求められています。昭和47年に建設された旧庁舎は、老朽化が進み耐震化が必須となっていました。また、消防救急無線のデジタル化への対応も課題となっていたことから、新庁舎の建設に併せて、高機能指令センターの整備も行いました。

構造体Ⅰ類の耐震安全性を備えた新庁舎には、

出動要請に瞬時に対応できるように出動準備室を設けたほか、救急活動に伴う感染症の防止を目的とした救急消毒施設等を配置しました。加えて、仮眠室を個室化し、職員の勤務環境の整備を図っています。

地球環境への配慮も行き届いており、クール・ヒートピットを活用した空調設備や太陽光発電設備を備えている上、雨水を利用した防火水槽はトイレ等の節水にも役立つなど高い機能性を有しています。

お問い合わせは 建築課 ☎ 024-522-5124 まで

■『只見町 川と人の物語』 一般配付のお知らせ

去る平成26年7月、当機構は川をめぐる人々の営みを記録した『只見町 川と人の物語—平成23年7月の水害後にいった聞き書きを通して—』を発行しました。このたび500部限定で一般配付を行うこととしましたので、ご希望の向きは右記宛お申込みください。

【お申込み窓口】

株式会社日進堂印刷所

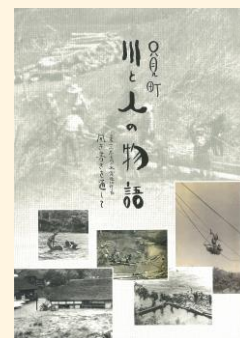
TEL: 024-594-2213

<http://www.nisshindo.co.jp/kawahito>

手数料 1,000円/部

【お問合せ先】

当機構企画課 024-522-5123



夜間・休日を問わず橋梁点検を行っています

橋梁定期点検は、橋梁の立地次第で交通規制が必要となったり、点検時間帯が制限されたりする場合があります。当機構は、時間帯や曜日を問わずそれぞれの橋梁に合った点検計画を立案し実施しています。



上：跨道橋点検時の規制状況
下：跨線橋点検時の線路内点検状況

橋梁定期点検は近接目視で実施され、橋梁点検車や高所作業車を使用して点検を行う際には車両通行止めや片側交互通行等の交通規制が必要となります。

例えば、昨年定期点検を実施した国道6号を跨ぐ橋梁（跨道橋）の場合、相双地区の復興や福島第一原発の廃炉作業に携わる工事関係者の車両が国道6号を頻繁に往来しており、平日に交通規制を行うと渋滞を招く恐れがありました。そこで関係機関と協議を重ね、工事関係者の利用が少ない日曜日に片側通行の規制を敷いて橋梁点検を行うこととした結果、渋滞等が発生することなく無事点検作業を終えることができました。

また、鉄道を跨ぐ橋梁（跨線橋）については、JRの場合、桁下の点検は各自治体がJRに委託しますが、橋面等の点検や橋全体の健全性診断はJR以外への委託が必要となります。昨年当機構が受託した跨線橋点検・診断業務では、診断を行うために損傷状況を把握する必要があることから、き電停止後の夜間点検に立会いました。

今後も各橋梁の立地環境に合わせた点検計画を立案し、安全第一で橋梁点検を実施してまいります。

お問い合わせは 構造保全課 ☎ 024-597-7063 まで

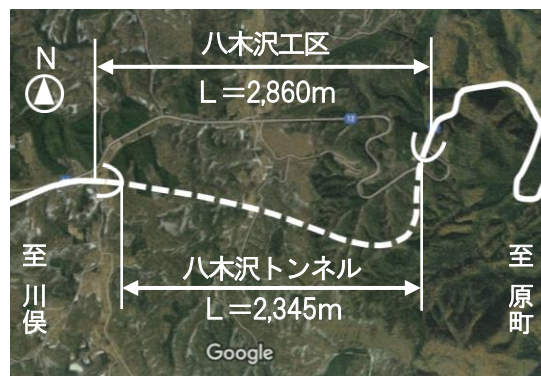
八木沢トンネルが貫通しました

平成28年3月20日、主要地方道原町川俣線「八木沢トンネル」の貫通式が行われました。福島県相双建設事務所が整備を進める本トンネルは、平成30年の供用開始を予定しています。

主要地方道原町川俣線は、国道114号など主要な8路線からなる「ふくしま復興再生道路」の一つとして、重点的に整備が進められています。

八木沢峠は急勾配や急カーブが連続しており、特に冬期には路面凍結に起因するスリップ事故が多発しています。さらに、異常気象時には通行止めが生じ、日常交通に支障を来しています。これらの問題の解消を目的とした当工区の整備は、安全で円滑な交通の確保と、浜通り地方と中通り地方との連携や交通の利便性向上に大きく貢献すると期待されています。

当該トンネル工事について、当機構は積算業務を受託しているほか、掘削工法の選定等専門的な判断を行う「トンネル専門委員会」の委員を務め、同委員会の運営にも携わっています。



お問い合わせは 土木1課 ☎ 024-522-5122 まで

檜枝岐村・葛尾村の地方版総合戦略を策定しました

平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、各自治体において、人口の現状と将来の展望を定める「人口ビジョン」と、地域の実情に応じて今後5か年の施策の方向性を示す「地方版総合戦略」の策定が求められています。当機構はこのたび、檜枝岐村と葛尾村の策定作業を支援しました。

■檜枝岐村

村の主産業である観光業を活性化するため、5つの柱——イベントやツアーなど新たな観光環境の整備に取り組む「観光」、尾瀬国立公園や温泉などの「自然」、檜枝岐歌舞伎に代表される「歴史・文化」、裁ち蕎麦や山人（やも一ど）料理といった「食」、郷土愛を育む「教育」——からなる総合戦略を策定しました。

策定に当っては、若い村民を中心としたプロジェクトチームを結成するとともに、検討委員会や審議会等での意見交換を重ね、まちづくりの主役である村民の参画を重視しました。

平成29年2月に迎える村政100周年に向け、PDCAサイクルを活用しながら戦略で定めた各事業に取り組み、全村民が檜枝岐村民としての誇りを持ち、将来に対し明るい展望が持てる村づくりを目指します。

【5つの柱と施策】

柱	具体的な施策
Ⅰ 観光	誘客の強化
	山人料理のブランド化・特産品の拡充
	教育旅行の受け入れ態勢の強化
Ⅱ 自然	自然環境の保護・保全
	尾瀬・山岳観光の充実
Ⅲ 歴史・文化	檜枝岐歌舞伎の伝承・保全
	民俗文化の継承
	文化財の保護
Ⅳ 食	山人料理の継承
	休耕地を活用した農業の推進
Ⅴ 教育	郷土愛を育む教育の充実
	家庭での教育

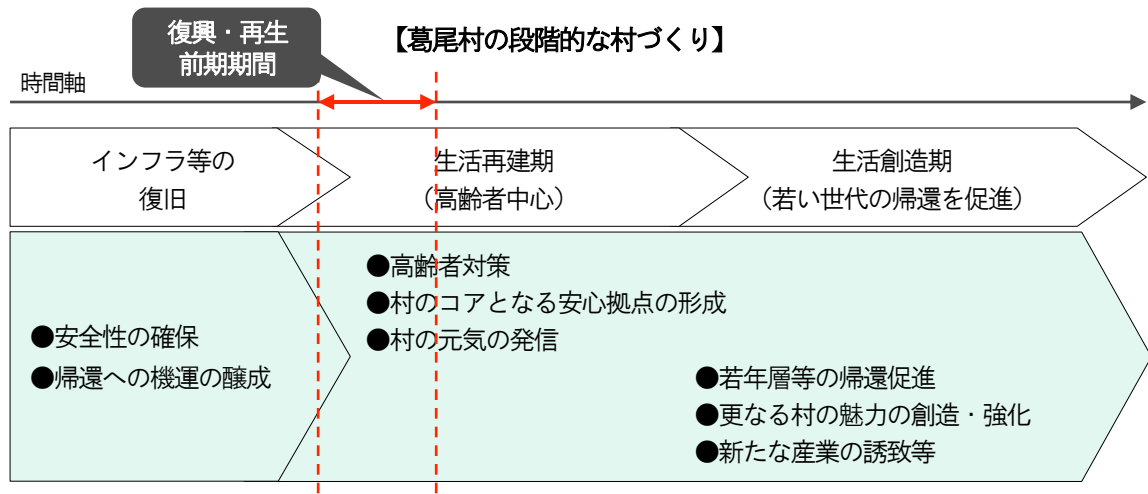
■葛尾村

葛尾村は、東京電力福島第一原発事故の影響で全村避難を余儀なくされていましたが、復興への歩みを着実に進めており、帰村の準備を整えつつあります。希望の持てる村づくりを実現し復興・再生をさらに進めていくため、人口ビジョン及び総合戦略を策定しました。

平成26年6月に村民の参画を得て策定した「かつらお再生戦略プラン」を基本として、平

成27年から平成31年を「葛尾村復興・再生前期期間」と位置づけ、この期間に実施する施策を「葛尾村総合戦略」として取りまとめました。

総合戦略では、「かつらお再生戦略プラン」で示した13の主要施策について、それぞれ具体的な事業内容と重要業績評価指標（KPI）を設定し、不断の点検と見直しを行いながら事業を進めていくこととしています。



本コーナーでは、個性あふれる当機構職員のありのままの姿をお伝えします。
連載第9回目の今回は、平成27年度の新入職員である建設技術部 構造技術課 技師 佐藤 勇人さんと、業務部 設備課 技師 吉田 悠将さんを紹介します。



「今は半人前の自分が歯がゆいけれど、いつか現場で頼られる技術者になりたい。」

建設技術部 構造技術課 技師

佐藤 勇人

土木業界をリードする存在に憧れて

母校の先輩の話聞いて当機構に興味を持ったという佐藤 勇人（さとう はやと）さん。発注者でもコンサルタントでもない特殊な立ち位置での仕事には、豊富な知識とノウハウが求められる。「市町村を支え土木業界を牽引していく組織の一員に、自分もなりたい。」との思いから当機構への就職を決めた。

当初から抱いていたその憧れは、配属されてすぐの頃に行った現場でより確かな思いとなる。

「発注者の方々から上司にいろいろなことを質問したり意見を求めたりしている様子を見て、自分も上司のように現場で頼られる技術者になりたいと強く感じました。」

知識の壁を越えた1年目。2年目は……

最初に任されたのは、橋梁補修に関する業務計画書や打合せ記録簿などを作成する仕事だ。しかしここで早速大きな壁にぶつかる。学生時代に橋梁について学ぶ機会がほとんどなかった佐藤さんは、専門用語が全くわからなかった。

「現場に行った時、発注者の方と上司とのやりとりについていけないんです。上司に質問する前に自分で調べなければと思って、まずどう調べてよいかかわからない。一つのことを理解するのにとても時間がかかってなかなか仕事が進まず、歯がゆい思いをしていました。」

戦力になれないもどかしさに耐えながら、今とはとにかく学ぶしかない自分と言い聞かせ、努力

を重ねてきた。まだまだ半人前だが、この1年で随分レベルアップしたと実感している。仕事の進め方についてもさまざまな学びを得られた。

「例えば橋梁補修で現場に行くときは、事前にその橋梁の点検時の資料に目を通しておくと、当日現場で効率的に業務を進めることができる。上司と現場へ出張する中で、仕事の進め方を工夫することの大切さに気付くことができました。1年目はとにかく前に進まなければとがむしゃらに仕事をしていたけれど、2年目は、仕事の質と生産性を高めることを意識しようと思っています。」

最近では橋梁補修の図面や数量計算書のチェックの仕事も任されるようになった。まだ要領がつかめませんが、新しいハードルにチャレンジできる喜びを感じている。「橋梁補修の仕事を担当してみて、いつか点検にも携わってみたいと考えようになりました。」と、業務への興味も広がっている。

10月には2級土木施工管理技師の試験にも挑戦できるようになる。合格して自分に自信をつけたいと、今から気合十分だ。



現場管理業務中の佐藤さん

「“テンプレートどおりの仕事などない”——現場に出たからこそ学べたことです。」

業務部 設備課 技師

吉田 悠将



福島のために働きたい

設備課の新入職員・吉田 悠将（よしだ ゆうすけ）さんは、当機構職員の中では珍しく、機械・電気システム工学専攻の出身だ。同期の技師・佐藤さんとは学生時代からの友人で、吉田さんが当機構に出会ったのも佐藤さんから聞いた話がきっかけだったと言う。

大熊町で生まれ育った吉田さんは、東日本大震災で被災して、初めて「ふるさと」という存在の大きさに気が付いた。志と呼べるほど立派なものではないかもしれないけれど、福島県の復興の役に立ちたいという確かな思いを抱いて、当機構の門を叩いた。

現場に出たからこそわかった大切なこと

働き始めてまず驚いたのは、現場に出かける機会がとても多いということだ。

「設計者の仕事はデスクワークがほとんどだと思っていたのですが、実際は、就業時間の半分くらいは工事監理で現場に出ているのでびっくりしました。『積算するにはまず現場を見てイメージを持っておくことが大事だ。』というのが上司の考えで、積極的に現場に連れて行っていただいています。」

この教育方針のお陰で、吉田さんは多くの気付きを得ることができたと言う。



工事監理中の吉田さん

「機械の仕組みをわかっているだけでは設計はできない。テンプレートどおりの仕事などないのだと、現場に行ってみるとしみじみ感じました。」

設計は、設備の設置場所や市町村の意向など、さまざまな条件に合致したものでなければならない。常にオーダーメイドなのだ。

図面からは想像できない距離や重さについての感覚を知り施工業者の方の苦勞に思いが至った時のことも、強く印象に残っている。

「例えば、電線を100m引っ張るとします。図面で『100m』と書いてもあまりピンときませんが、実際に現場に行ってみると100mという距離の長さには驚く。さらに、電線が意外に重いことや、思っていたほど容易には曲がらないということにも気が付く。体感すること全てが新鮮でした。」

工事監理では、施工方法について発注者の方の意向と施工業者の方の意向を調整しなければならない場面によく出くわす。日々蓄積されていく「現場ならではの感覚」は、今後間違いなく吉田さんの血となり肉となっていくことだろう。

最適な提案をするために新しい知識を

近年、さまざまな施設において空調や照明の設備が更新時期を迎えており、吉田さんが担当する業務にも、エアコンの入替えやLEDの導入などを行う案件が多くある。発注者の方のニーズを踏まえて最適な製品を提案できるよう、最新情報を常に頭に入れておかなければならない。

「現場で出会う施工業者やメーカーの方々が最新の製品事情に明るいので、積極的にコミュニケーションをとってどんどん知識を吸収していきたいと思っています。それぞれの現場に合ったベストな提案ができるよう、製品を比較できるくらいの幅広い知識を身につけなければ。」

そう意気込む吉田さんの瞳は、眼鏡の奥でキラキラと輝いていた。

ふくしま街道・川ものがたり ～桑折町 羽州街道と半田銀山～

福島県を走る街道と川を軸に、県内各地の歴史と文化を紹介する「ふくしま街道・川ものがたり」。今回は、奥州街道から分岐する羽州街道の歴史と今について、その起点・桑折町を軸に紹介します。

平成27年9月末から約6か月にわたって放送されたNHK連続テレビ小説「あさが来た」。ドラマの中で主人公に大きな影響を与えた人物として描かれる鉱山王・五代友厚（福島県出身の俳優・ディーン・フジオカが好演）は、羽州街道沿いにそびえる半田銀山を経営した人物でもありました。

生野銀山、石見銀山とともに日本三大銀山として名高い半田銀山は、桑折町の北西部にある標高863mの山です。上杉氏の支配下にあった慶長年間に本格的な採鉱が始まり、途中何度か休山に追い込まれながらも、明治期には五代氏が手腕を発揮して最盛期を迎えました。

鉱山は普通人里離れた山奥にあるものですが、半田銀山は珍しく交通の便に恵まれており、山麓を羽州街道が通っています。



羽州街道は、桑折宿の北端近くで奥州街道が分岐して始まる街道で、山形宿、久保田宿（秋田市）などを経て、油川宿（青森市）で再び奥州街道に合流します。江戸時代の両街道は、参勤交代や幕府役人・公家の往還の道筋であるとともに、年貢米や紅花、蚕種、銀などの流通路でもありました。特に羽州街道は、天領であった山形県高畠の年貢米を阿武隈舟運の河岸へ運ぶ道として重要な役割を担っていました。



(上) 羽州街道の起点・桑折町追分
(下) 鉱石を運んだトロッコの跨道橋跡（宇女郎橋）

羽州街道の起点である桑折町追分には、地域の人々が県や町の協力を得て復元した休み処や道標、柳の木、句碑などがあり、往時を偲ぶことができます。句碑には江戸時代に活躍した桑折の俳人・卜而（ぼくじ）の句が刻まれています。

夕暮に 心の通ふ 柳かな

参勤交代の行列や銀山関係者、商人、旅人など多くの人々で賑わう街道の分岐点は、人々の心が交わる場所でした。時代の変化に伴って国道4号、東北本線、東北新幹線、東北縦貫自動車道などの近代的交通路が発達し、2本の旧街道を通る人は少なくなりましたが、近年旧宿場町同士の交流が盛んになっており、追分は今もなお人々の心の交差点であり続けています。

追分から羽州街道を北進し高速道路を潜ると、宇女郎橋で石積みの橋台に出逢います。旧羽州街道を挟むその橋台には、かつて銀山から桑折駅へ鉱石を運んだトロッコの跨道橋が架かっていました。橋台の傍らに立ち、銀山で栄えた在りし日に思いを馳せながらふと北西を望めば、そこには断崖のような斜面を擁した半田山が鎮座しています。山崩れの古傷をその肌にかすかに残して、街道を行き交う人々を見守っています。

参考文献

桑折地区歩いて楽しめる地域づくり懇談会桑折学部会編（2010）『桑折学のすすめ：郷土愛を育むために』
 桑折町史編集委員会編（1989）『桑折町史 第2巻』、桑折町史編集委員会編（2005）『桑折町史 第3巻』
 佐藤次郎著 桑折町文化記念館編（1984）『半田銀山の歴史』、庄司吉之助（1982）『庄司吉之助著作集：半田銀山史』
 福島県教育委員会編（1983）『「歴史の道」調査報告書：奥州道中 白坂鑑明神一貝田』
 福島県教育委員会編（1983）『「歴史の道」調査報告書：羽州街道 桑折一小城峠』

ふくしまの復興を
支援しています



【相談専用 TEL】 024-597-7044

【編集・発行】 〒960-8043 福島県福島市中町7-17 一般財団法人ふくしま市町村支援機構

TEL : 024-522-5123 FAX : 024-522-3631 E-Mail : info2@fctc.or.jp URL : http://www.fm-so.org/